

鳥海山に関する幾つかの話

日本山岳会山形支部長 鈴木 理夫

1 鳥海山は他の山とどんなところが違うの？

日本の中で鳥海山は海岸から立ち上がり、唯一2000m以上の標高のある山です。離島の山である北海道の利尻岳、鹿児島島の屋久島の宮之浦岳は、2000m以下の標高です。東北では尾瀬の燧岳に次ぐ2番目の標高ですが、独立峰である故の高さを感じるとともに海の近さを感じる山です。酒田市の年間降水量は約1800ミリですが、鳥海山の頂上付近ではその10倍程度の降水量があったと酒田二中山岳部気象班(池田昭二先生指導)が昭和33年に報告しています。鳥海山の標高1000m以上の年間降水量は12000ミリを超える場合があり、雨の多さで有名な屋久島を上回ると言われています。鳥海山はそのおかげで水に恵まれた山で、遊佐町等の山麓では豊富な水が各所に湧き出します。丸池様や牛渡川は豊富な湧水のもたらしたものです。吹浦や象潟方面で採れる夏の岩ガキは鳥海山の水のめぐみによるものです。豊富な残雪は年を越し万年雪となるものがあり、雪解けとともに高山植物が咲き乱れる花の山としても有名です。

2 鳥海山はどうやって今の形になったの？

鳥海山は富士山と異なり見る方向により形が変わって見えます。鳥海山は皆さんが昨日登った西鳥海火山と、新山外輪山等の東鳥海火山からなる複合火山です。広範囲に及ぶ初期火山体の上に、西鳥海火山体が形成されました。やがて山頂部で爆発が生じ笹ヶ岳～御浜～月山森に囲まれた馬蹄形のカルデラが作られ、噴出口は鳥海湖となり、鍋森や扇子森などの火口丘ができあがりました。その後火山活動は東に移り東鳥海火山体が形成され、紀元前466年に現在の山頂付近から大崩壊を起こしました。七高山や伏拝岳等を外輪とする東鳥海馬蹄形カルデラが形成され、最後に荒神岳の火口丘が出来上がりました。

鳥海山の火山活動は有史後も続き、有名なのが1801年(享和元年)の大爆発です。荒神岳と七高山との間に溶岩ドームが盛り上がり、外輪山より高くなりました。これが現在の頂上である新山になります。この噴火の際に登拝で登っていた地元草津(現酒田市)の八名の方々が隕石により命を落としています。今年が新山が出来上がって222年目になりますので、鳥海山にとって記念すべき年なのかもしれません。最近では1974年(昭和49年)に水蒸気爆発により噴煙を上げる火山活動がありました。マグマの流出はありませんでしたが、かなりの降灰があり泥石流も生じて、山頂付近は2年3か月に及ぶ入山規制が敷かれました。(昭和51年6月1日解除)鳥海山が改めて活火山であることを認識させられました。

3 鳥海山は昔から登られていたの？

鳥海山は噴火を繰り返して畏怖された山です。朝廷は「大物忌神」を祀り、噴火の度に「神階」を上げ国の守護神として位置づけていくことになりました。また、その姿や高さから、昔から修験道や信仰登山が盛んに行われました。山の神が農業の神として位置づけられ、山の神の御利益を授かるうとして、多くの登拝者が山形・秋田の各地から、遠くは宮城や岩手方面からも訪れる者がありました。鳥海山の麓には多くの宿坊があり、宿泊して白装束に着替え登りました。鳥海山の地名で信仰登山に関わりのあるものを挙げてみます。文珠岳、伏拝岳、行者岳、七高山、荒神岳、七五三掛(しめかけ)、賽の河原、舍利坂・氷の薬師(矢島口)などです。

頂上から少し下ったところに大物忌神社の「御本社」があります。そして、二つの里宮「吹浦口の宮」、「蕨岡口の宮」の三社で構成されています。御本社は20年ごとに式年遷宮を行い立て替えられます。最近では2017年に行われ、伊勢神宮のヒノキの古材を梁に用いました。蕨岡口の宮は上蕨地区にはほぼ中央に位置しています。この集落は宿坊で栄えた名残が今でも感じられます。吹浦口の宮は今回見学コースに入れましたが、鳥海山の神「大物忌神」と月山の神「月山神」を主祭神としてきたので、本殿の隣に月山神社がつけられています。明治以降蕨岡と吹浦が社格をめぐり対立し、従来から規模でも優勢だった蕨岡ですが、羽越線の開通により吹浦が優勢になったりしました。豊作などを祈る「お山参り」も昭和50年代になると一気に減少し、観光登山が主流になっていきました。

4 鳥海山の県境がまっすぐで大きく秋田側に張り出しているのはなぜ？

江戸時代の元禄十四年に秋田側の矢島衆徒と、庄内の蕨岡衆徒の間で、山頂御本殿造営工事をどちらが行うかで、領有権を主張し合う争いが生じました。この争いは幕府への訴訟となり裁定は「出羽国飽海郡大物忌神社」と『延喜式』、平安時代の歴史書である『日本三大実録』に記載されていたことを根拠に、矢島側の訴えは退けられました。鳥海山北麓七合目以北を矢島領と判断した幕府評定所の裁定が今の県境になっています。このような経緯により直線的に設定されている県境が出来上がり、鳥海山の頂上付近およびその周辺のかなりの部分は完全に山形県(遊佐町)の扱いになっているのです。矢島藩(1万石)と庄内藩(実質20万石 譜代大名)の力関係も裁定に影響したと考えられています。そのことについて秋田県では現在でも不満を持っている面があるようです。それだけ鳥海山という山が魅力的であるからかもしれません。なお、一般的に山形側は「ちょうかいざん」、秋田側では「ちょうかいさん」と呼ぶ場合が多いようですが、どちらも間違いではありません。

5 鳥海山と人々との関わりや文学について教えて。

鳥海山で農作業を告げる雪形といえば、「種まきじいさん」です。これは今回の登山の目的地である笙ヶ岳南側斜面に現れるものです。ちょうど腰の曲がった地点が東竜巻付近になります。これは鳥海山の見える庄内平野のどこからでも見ることができます。このように鳥海山を見ながら鳥海山周辺の人々は、延々と生活をしてきました。鳥海山麓では旧石器時代から人が生活し、遊佐町の縄文時代の遺跡「小山崎遺跡」は、海が近く清流で有名な「牛渡川」が流れ、庄内平野を一望できる非常に魅力的な環境にありました。古代から現代にいたるまで人々は鳥海山とともに生きてきたと言えるかもしれません。

全国で行ってみたい山を挙げてもらうと鳥海山は間違いなく上位に入ります。深田久弥が著した『日本百名山』全てを登った方に「良かった山」を聞いても必ず上位に入るということを聞いたことがあります。以下『日本百名山』の鳥海山に関する文章です。「名山と呼ばれるにはいろいろの見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山は他に落ちない。眼路限りなく拡がった庄内平野の果てに、毅然とそびえ立ったこの山を眺めると、昔から東北第一の名峰とあがめられてきたことも納得できる。東北地方の山の多くは、東北人の気質のようにガッシリと重厚、時には鈍重という感じさえ受けるが、鳥海にはその重さがない。颯爽としている。」

松尾芭蕉は月山に登っていますが、鳥海山は登っていません。酒田を出て吹浦に差し掛かり雨に降られ一泊しています。大物忌神社を訪れた記録はありません。県境の三崎公園付近には芭蕉

が歩いた道の一部が残っています。

『奥の細道』より

六月十五日 象潟へ趣。朝ヨリ小雨。吹浦ニ到ル前ヨ より甚雨。昼時、吹浦ニ宿ス。此間六リ、砂浜、渡シニツ有。左吉状届。晩方、番所裏判済。

十六日 吹浦ヲ立。番所ヲ過ルト雨降出ル。一リ、女鹿。是 より難所。馬足不通。番所手形納。大師崎共、三崎共云。一リ半有。小砂川、御領也。庄内預リ番所也。入ニハ不レ入手形。塩越迄三リ。半途ニ関ト云村有(是 より六郷庄之助殿領)。ウヤムヤノ関成ト云。此間、雨強ク甚濡。船小ヤ入テ休。昼ニ及テ塩越ニ着。佐々木孫左衛門尋テ休。衣類借リテ濡衣干ス。ウドン喰。所ノ祭ニ付而女客有ニ因テ、向屋ヲ借リテ宿ス。先、象潟橋迄行而、雨暮気色ヲミル。今野加兵へ、折々来テ被レ訪。

十七日 朝、小雨。昼ヨリ止テ日照。朝飯後、皇宮山蚶 彌(満)寺へ行。道々眺望ス。帰テ所ノ祭渡ル。過テ、熊野権現ノ社へ行、躍等ヲ見ル。夕飯過テ、潟へ船ニテ出ル。加兵衛、茶・酒・菓子等持参ス。帰テ夜ニ入、今野又左衛門入来。象潟縁起等ノ絶タルヲ歎ク。翁諾ス。弥三郎低耳、十六日ニ跡ヨリ追来テ、所々へ隨身ス。

十八日 快晴。早朝、橋迄行、鳥海山ノ晴嵐ヲ見ル。飯終テ立。アイ風吹テ山海快。暮ニ及テ、酒田ニ着。吹浦の地名が入った句 「あつみ山や吹浦かけて夕すゞみ」

6 鳥海山と関わりのあるおみやげは？

鳥海山の豊かな伏流水は、夏に天然岩ガキを生で食べることが可能です。これは全国でも珍しいことです。遊佐は鮭の遡上でも有名です。庄内では鮭のことを「イオ」と呼んでいます。これは魚全般を指すことばです。鮭によりこの地域の生活が支えられたことを示しています。

鳥海山の豊かな水は、酒造りに活かされています。遊佐町には二つの造り酒屋があります。銘柄は「東北泉」(高橋酒造)吹浦と「杉勇」(蕨岡)です。小さな酒蔵ですが、鳥海山の水のおいしさを感じさせるお酒です。

<参考文献>

『感動する鳥海山』鳥海山の会 令和2年6月

『恵みの山 鳥海山』粕谷昭二 2009年10月31日 東北出版企画

「鳥海山 仁賀保高原・象潟・出羽丘陵・酒田」池田昭二 昭文社 エアリアマップ 初版1975年

「鳥海山を登る 夏から秋の登山道ガイド」佐藤 要 2014年7月15日

『自然・歴史・文化 鳥海山』式年遷座記念誌刊行会 鳥海山大物忌神社 1997年10月22日

「巡るゆぎまち」別冊クレードル山形県遊佐町ガイドブック遊佐町企画課観光物産係 2023年3月